

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年6月11日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|--------------|--|-------------------|
| 事業所番号 | 2277102576 | | |
| 法人名 | 有限会社ハピネス | | |
| 事業所名 | グループホームひまわり | | |
| 所在地 (電話番号) | 浜松市東区中野町4258 | | (電話) 053-422-4553 |
| 評価機関名 | 静岡県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 静岡市葵区駿府町1-70 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年1月15日 | | |

【情報提供票より】(20年 12月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17年 4 月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 19 人 | 常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 | 7.1人 |

(2) 建物概要

| | | | | |
|------|--------|------|-------|--|
| 建物形態 | 併設(単独) | | 新築/改築 | |
| 建物構造 | 木造2階 | | 造り | |
| | 2階建ての | 1階 ~ | 2階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 56,000 円 | その他の経費(月額) | 16,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) | | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(200,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 有(期間:2年) | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 600 円 | おやつ | 200 円 |
| | または1日当たり | | 1,500 円 | |

(4) 利用者の概要(月 日現在)

| | | | | | | |
|-------|------|--------|-----|------|------|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 13 名 | |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 5 名 | | | |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 5 名 | | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 83.3 歳 | 最低 | 67 歳 | 最高 | 91 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | 坂の上ファミリークリニック・飯島歯科医院 |
|---------|----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天竜川の西岸に開設されて4年目を迎える。周囲には田畑が広がり、自然環境に恵まれている。木造2階建てのホームは、1階は「夢」、2階は「空」という名前の2ユニットで、玄関はそれぞれ別の造りになっている。建物の内部は木のぬくもりが感じられ、居心地の良さが伝わってくる。利用者が、安心して、穏やかな生活が継続できるようにホームの理念を考え、その実現に向けて職員が一体となって努力している。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-----------|--|
| 重点項目 ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価報告書を玄関に設置し、誰もが閲覧できるようにしている。評価結果による改善計画や取り組みが具体的でないので、再度、職員で話し合い、全員で改善計画に取り組まれることを期待する。 |
| 重点項目 ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の自己評価は、全職員で取り組むことができず、管理者がまとめた。評価の意義や目的を、もう一度全職員で話し合い、これまでの取り組みを振り返り、改善計画を作成してサービスの向上に活かすことを期待する。 |
| 重点項目 ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 会議は、現在3ヶ月に一度の開催であるが、今後は2ヶ月に1度の開催を計画している。ホームの運営状況を報告しながら、利用者の生活充実に向けた意見交換などを行っている。今後は、今回の評価結果についても報告し、意見をもらうなど運営に反映できるよう取り組まれたい。 |
| 重点項目 ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族の訪問時に、気軽に何でも話せる雰囲気づくりを心がけて、意見や要望の把握に努めているが、寄せられる意見や要望はあまりない。家族からの意見や要望は言い出し難いことを理解して、相談窓口や相談者の存在を知らせたり、家族同士で話し合う機会を作るなどの工夫をしたい。 |
| 重点項目 ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 自治会へ加入し、地域の行事へ参加したり、小学生の訪問活動を受け入れている。また、自治会長に運営推進会議に参加してもらうなど関わりが深まりつつある。今後も、利用者と地域住民がふれあう場を企画したり、地域住民の一員として役割を担っていくような交流の取り組みを検討されたい。 |

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「個を尊重し生きがいのある安心した暮らし」を理念に掲げ、利用者が住み慣れた地域で安心した暮らしが継続できるよう支援に努めている。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員の採用時には、必ず理念を伝えている。ホーム内に理念を掲示し、ミーティングや申し送りなど、サービスを振り返る時に、職員間で確認し合っている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入し、草刈りなどの地域行事へ積極的に参加している。また、小学生の訪問を受け入れ、交流を図っている。 | ○ | 地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく取り組みを期待する。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の意義や目的を理解し、これまでの取り組みを振り返る良い機会だと捉えている。今回の自己評価は、職員の意見を聞きながら、管理者がまとめた。 | ○ | 利用者に最も多く接し、ケアの実際を知る職員全員が自己評価に取り組む体制を整え、課題を共有し、具体的な改善計画につなげていくことを期待する。 |
| | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 3ヶ月に一度、自治会長、市担当者、地域包括支援センター職員、利用者家族、職員の参加により開催している。運営状況や防災訓練の報告を行ったり、利用者の生活向上に向けた意見交換等を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市で行う会議へ参加したり、介護相談員の受け入れ等により連携を図っている。その他、必要に応じた連絡や情報提供を行っている。 | ○ | ホームの実情やサービスの取り組み状況を折に触れ伝え、考え方や課題を共有する関係作りを図られたい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族の訪問時に、生活の様子を伝えている。その他、必要に応じて、個々の家族へ電話連絡を行っている。暮らしぶりやエピソードなどを、家族へ定期的に伝えられるように、新たに「生活の便り」を発行した。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の訪問時に、何でも話せる雰囲気作りを心がけている。意見や要望には速やかに対応し、解決する仕組みを設け、運営に反映できるよう努めている。 | ○ | 家族同士で話し合う機会を作ったり、相談窓口について説明するなど、意見や苦情を積極的に聴きとる取り組みを工夫されたい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者への弊害を考慮し、職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。また、新規採用の職員は、馴染みの関係づくりができるのを見極めてから関わるようにしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 業務の体験を学びにつなげている。また、ホーム内研修の充実を図り、経験年数に応じた研修会を行い、職員のやる気を促し、質の向上に努めている。 | ○ | 職員の経験年数や、習熟度に応じた研修計画を作成し、外部研修への参加や、研修報告の機会を確保していくことに取り組まれたい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県グループホーム連絡協議会へ加入し、地域の介護支援専門員連絡会へも参加している。市内の同業者とは、必要に応じて連絡や連携を図っているが、定期的な交流やネットワーク作りまでには至っていない。 | ○ | 地域の同業者と、相互訪問や学習会など職員同士の交流の機会を持ち、サービスの質の向上につなげられたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人や家族にホームを見学してもらうことから始め、職員が自宅を訪問したり、ホームへ遊びに来ていただいたりすることを繰り返しながら、馴染みの関係ができるように努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 「一人ひとりに寄り添うケア」を念頭に、常に「人生の先輩」という気持ちを持ち、共に過ごし、学び、支え合う関係を築くように心がけている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 暮らしの中で、声を掛け、話をよく聴いている。また、利用者の生活歴や言動、表情から、一人ひとりの思いの把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者をよく知る家族や関係者と話し合い、本人の意向や思い、関係者の意見や気づきを反映した介護計画を作成している。計画は、利用者と家族の同意を得ている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月から6ヶ月で見直しを行っている。家族や本人の要望を取り入れ、状況の変化に応じて、随時見直しを行うようにしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホームの多機能性を活かし、利用者と家族が安心して暮らし続けていくための支援を心がけている。外出やかかりつけ医への受診等、柔軟に対応するように努めている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者と家族の希望により、かかりつけ医への受診を支援している。ホーム協力医は、月2回の定期的往診や24時間体制の協力があり、適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、利用者及び家族の意向を踏まえた対応を考えている。家族とは定期的に対応方法を確認し、全職員でその方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し、入浴や排泄等の言葉かけに注意している。個人情報については、個別のファイルを作成するなど、徹底を図っている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の生活歴、趣味や嗜好、習慣等を把握し、職員間で情報を共有して、一人ひとりの生活リズムに合ったその人らしい暮らしを支援することに努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の嗜好を把握し、献立に取り入れている。盛り付けや配膳、片付け等は、職員と一緒に無理のないように行っている。職員も同じ食卓を囲み、一人ひとりのペースに合わせ、さりげなく支援している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の習慣や希望に合わせて、入浴の時間帯や回数を定めず支援している。浴室を暖めておくなど配慮している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の生活歴から、できること、得意なことを見つけ、その人に合った活躍の場を暮らしの中に作るようにしている。畑仕事や絵画などは、利用者の喜びと自信につながっている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 一日の日課を設けず、一人ひとりの希望に応じ自由に過ごせるように配慮しているが、日常的な外出は、あまり行われていない。 | ○ | ホームの中だけで過ごすことが無いよう、利用者のその日の状態や、習慣、希望、体調に合わせて外気に触れる機会を積極的に取り入れられたい。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 施錠する弊害を全職員が理解し、日中の施錠は行っていない。帰宅願望のある利用者には、気持ちが落ち着くようさりげない言葉掛けや、見守りを行うなど、利用者の自由な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の協力を得て、通報の仕方や、初期消火訓練、避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議で、訓練の様子を報告している。 | ○ | 運営推進会議等で、地域との具体的な相互協力体制(訓練の参加、避難誘導、水分・食料の備蓄等)について、意見交換の場を持つことを期待する。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|---|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事の摂取量はチェック表に記録している。法人の栄養士から、献立や栄養バランスについて指導を受けている。 | ○ | 水分量の把握にも留意し、利用者一人ひとりのおおまかな摂取量を全職員が常に意識しながら支援に取り組むことを期待する。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームは木造で、内部にも木のぬくもりが感じられる。共有空間にはソファを置き、照明にも気を配るなど利用者にとって居心地の良い空間作りになっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者・家族と相談しながら、本人の好みや馴染みの物を持ち込んでもらい、生活スタイルに合わせてその人らしく過ごせる、居心地のよい居室作りを工夫している。 | | |